

第2回 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録

| | |
|------|--|
| 日 時 | 令和2年4月15日(水) 午前9時30分から午後3時55分まで |
| 開催場所 | 青葉区役所4階401～3会議室 |
| 出席者 | <p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 横山 順一 (日本体育大学教授)</p> <p>委員 (50音順)</p> <p>相原 照世 (青葉区老人クラブ連合会)</p> <p>大平 良樹 (東京地方税理士会緑支部)</p> <p>杉浦 一夫 (青葉区連合自治会長会)</p> <p>中野 しずよ (特定非営利活動法人市民セクターよこはま)</p> <p>平野 香菜 (青葉区民生委員児童委員協議会)</p> <p>山田 範子 (特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブパレット)</p> <p>山田 秀樹 (株フィールズ第三者評価事業部)</p> <p>【事務局】</p> <p>青葉区福祉保健センター担当部長 吉田 雅彦</p> <p>青葉区福祉保健課長 滝本 潔</p> <p>青葉区福祉保健課事業企画担当係長 神田 紗弥加</p> <p>青葉区福祉保健課事業企画担当 小池 由季、本田 祥子、本島 淑恵</p> |
| 欠席者 | 有り 中野 康子 (青葉区中途障害者地域活動センター「青葉の風」) |
| 開催形態 | 公開 一部非公開 (応募者からのプレゼンテーション、委員からの質疑、審査及び指定候補者等の決定 (傍聴者0人)) |
| 議題 | <p>(1) 会議の公開・非公開について</p> <p>(2) 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について</p> <p>ア 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法について</p> <p>イ 応募団体に対するヒアリングの実施について</p> <p>(3) 応募団体プレゼンテーション</p> <p>(4) 質疑応答</p> <p>(5) 指定候補者の選定</p> |
| 決定事項 | <p>指定管理者の候補者 (以下「指定候補者」という。) 及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者 (以下「次点候補者」という。) として、次のとおり、横浜市青葉区長に報告することとする。</p> <p>1 横浜市美しが丘地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人 緑成会</p> <p>次点候補者：該当なし</p> <p>2 横浜市大場地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>指定候補者：社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会 次点候補者：該当なし</p> <p>3 横浜市鴨志田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 ふじ寿か会 次点候補者：該当なし</p> <p>4 横浜市恩田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 みどり福祉会 次点候補者：該当なし</p> |
| 議 事 | <p>1 審査に係る確認</p> <p>(1) 会議の公開・非公開について 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱第9条により原則公開、ただし、「指定管理者の選定に関する審査のうち、応募団体の面接審査」及び「指定管理者の選定に関する審査及び指定候補者の選定」については、同要綱第9条ただし書きにより、非公開とすることを確認した。</p> <p>(2) 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について</p> <p>ア 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員の大項目（1～6）の合計点数が60%以上で、かつ各大項目（1～6）において40%以上の得点を得た場合のみ、選考の対象とすることを確認した。 <p>イ 応募団体に対するヒアリングの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体のプレゼンテーション・質疑応答後に、委員間で意見交換することを確認した。 <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の応募状況について、15日実施分は4団体から応募があったことを報告。選定及び本日の選定の進め方について、確認した。 ・神奈川県警に照会した結果、資格要件の「暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないこと」に関して、該当しないとの回答を受けた旨を事務局から報告した。 ・政策局共創推進課に横浜市税の納付状況調査の確認を行った結果、資格要件を満たしているとの回答を受けた旨を事務局から報告した。 <p>2 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査</p> <p>(1) 横浜市美しが丘地域ケアプラザ</p> <p><主な質疑応答></p> <p>(委員) 中学生版地域福祉保健計画について、どのように関わっているか。</p> <p>(団体) 山内中学校と中学生版地域福祉計画を作成するうえで、協力をさせていただいた。中学生も地域のことをよく見ていて、地域でこのようなことができるのではないかというアイデアをたくさん出してくれた。このような取組での出会いをきっかけとして、ケアプラザの活動に中学生も参加してほしいと思う。</p> |

(委員) 稼働率についてどのように目標を設定されているのか。また、広いエリアなので、ケアプラザに来にくい方もいると思うが、稼働率の向上に向けた取組を教えて欲しい。

(団体) 坂道の途中など、アクセスしにくい場所にある。ケアプラザは高齢者の施設と捉えられているが、子育て世代や子どもも来場してもらえるようにしている。また、子ども向けの企画を多めに立てており、子ども食堂などの中でPRをしている。

稼働率は70%台なので、ますます利用率を高められるようにPRをしていきたい。数値目標は掲げていないので、今後の課題としていきたい。

(委員) 妊娠期から18歳までの子育て中の方の相談の受入れをどの様にしていくのか。また、これからの子育て世代への取組を教えて欲しい。

(団体) 美しが丘エリアでは、転居されてくる方が多い。地域交流コーディネーターや生活支援コーディネーターなど、地域とつながっている職員が、子育てサロンや子育て相談事業の案内をするなど、関係機関と連携をとり相談をしっかりと繋いでいる。

ケアプラザの事業について、子どもがいるから申込みないと思われる利用者もいるため、昨年度からは、子連れでも参加できるイベントを企画し、子連れも大丈夫であると案内することで、安心して過ごせる場所を作っている。

(委員) ケアプラザのホールを使って障害者スポーツのボッチャ体験事業をされているが、地域にある障害者施設の方が参加されているのか。また、開催の頻度は。

(団体) ボッチャを多目的ホールで開催しており、近くの障害者施設の方に参加していただいている。頻度は2カ月半に1回。さまざまな障害者の施設に来ていただき実施しているので、将来的には、ボッチャの対抗戦ができたらと思っている。

(委員) つながりを大事にしているとのことだが、今後はどのような効果を期待しているのか。

(団体) 地域の方の中で繋がりを持つ方が増えて、地域の方同士の支えあいが広がって、繋がりが増えることで地域力が高まることを目標としている。

(委員) 老人クラブでは認知症サポーター養成講座を行っているが、老人クラブとどのような接点を持っているのか。

(団体) 定例会を地域ケアプラザで行っている老人クラブの方とは、毎月顔を合わせて情報発信をしたりしている。それ以外の方からも、講座実施の依頼などについても相談がある。認知症サポーター養成講座も、我がこととして考えてもらい、自分自身や身近な方がなった場合のことを考えるなど、具体的に考えてもらえるようにしている。今後も老人クラブと地域課題などの話し合いをしたり、連携を取っていきたい。

(委員) ニーズ、要望の吸い上げについて、最近では地域からどのような要望が上がってきたのか。

(団体) 去年、地域ケア会議の中で上がってきたのは、防災の取組についてで、日頃からの繋がりが防災に繋がると思う。日頃からの見守り活動をどう作っていくかが地域のニーズと捉えていて、つながりづくりに繋がってくると思う。

(委員) 地域の中で、会議に出席できない方など、声にならない声をどの様に吸い上げているか。

(団体) 声にならない声を吸い上げるのがケアプラザの使命。総合相談機能があるので、生活の中で困りごとがあり相談に来られた場合は、主訴だけではなく背景にある生活課題などを聞き取って、ニーズとして把握している。総合相談の中で地域とのかかわりがどれくらいあるのかというアンケートをしているが、挨拶程度という方が多い。老人会に参加している方や家族で地域に繋がっている方がいると、次のステップとして地域とつながりやすい状況にある。地域の中で繋がりがやすくなるために、総合相談機能を充実させることが大切。民生委員や民生委員児童委員の方の声も聞いていくことも、大切だと思う。

(2) 横浜市大場地域ケアプラザ

<主な質疑応答>

(委員) 妊娠期から18歳までの子育て世代に関する地域の課題と取組、また、子育て世代からの相談にはどのような対応をしているか。

(団体) 転入が多いエリア。どこに遊び場があるのかなど、子どもに関してどこに相談をしたら良いのかという声もある。そのような悩みを解決する取組として、子育てMAPを作り、またケアプラザでも10を超える事業を実施している。また、子育て広場とも連携し、子育てに関する情報をお伝えするとともに、ケアプラザとしても相談に応じ、連携先についても情報提供をしている。新たな企画はまだ考えていないが、これまでの事業を継続し、区役所こども家庭支援課や地域の子育て広場と連携し、点から面に広がる支援をしていきたい。

(委員) 平均寿命が非常に高い地域だが、ケアプラザの運営としてどのような影響があるのか。

(団体) 推移をみると、平均寿命の年齢は少しづつ上がってきている。市内では青葉区は若い方だが、少子高齢化が進むと言われているので、介護予防や高齢化に対する相談窓口の周知などに取り組んでいきたい。

(委員) 医療と介護の相互理解に努めるとのことだが、連携について介護のほうからは、どのような方が会議に参加しているのか。

(団体) 包括支援センターの職員が、医療関係との連携会議に参加している。医療

機関と連携し、地域連携室やケースワーカー、医師会などと日頃からの連携を深めて、顔が見える会議などに参加している。

(委員) この地区はボッチャが盛んだと聞いている。健康寿命を高めるために、どのような取組があるか。

(団体) ボッチャは、ケアプラザのみならず、地域の集会所、自治会館でやっている。ボッチャは、さわやかスポーツ普及委員、横浜市体育協会の協力を得てケアプラザや地区センターで月3回実施している。老人クラブの参加にもつなげていきたいと考え、ボッチャ以外にも、老人クラブの活動につながるような取組になればと思いつけている。

(委員) 第3期の中で地域のニーズに対して、まだ対応ができていないような部分があれば教えて欲しい。

(団体) 地域交流が扱う事業についてまだ足りない部分があるので、地域の専門機関、区役所のケースワーカー、病院と連携を密にしていくことが必要であると思う。

(委員) 第4期で重点的に取組みたいことは。

(団体) いろいろな課題と接する中で、ケアプラザだけで取り組めることは少なくなってきた。これから充実させていかななくてはならないことは、地域の力だと思う。

地域の方からの声をケアプラザで吸い上げて、専門的な支援に繋げることが大事。地域の力を生かせるような取組をすることが大切。

(3) 横浜市鴨志田地域ケアプラザ

<主な質疑応答>

(委員) 気づきの和連絡会は年に何回実施し、メンバーはどのような方なのか。

(団体) 3～4カ月に1回開催している。メンバーは区、区社協、地区社協、連合町内会、単位自治会の会長。今後は地域の事業所、スーパー、学校などに声をかけて、地域の横串をさせるような取組をしたい。

(委員) これから社会の情勢も変わると思うが、今後5年後に向けて新規の活動や継続していく活動について、どのように考えているか。

(団体) 従来の活動は継続する。新しい取組については、気づきの和連絡会から具体的な取組を考える場を作り、地域と一緒に考えたい。今後は、ケアプラザ以外で集まれる場所や情報交換できる場を新しく作りたいと思う。

(委員) 妊娠期から乳幼児期の取組を教えて欲しい。また、ボランティア活動が盛んになるとコーディネートが難しくなると思うが、コーディネートで工夫していることと今後の展望について教えてほしい。

(団体) 区主催の子育て相談会や子育て団体「かも☆ん」による子育て広場を開催、また、町内会館やまちなかクラブではミニ子育て広場を開催している。ボランティアについては、ちょこボラを平成23年度から実施している。

受付を生活支援コーディネーターが行い、地域のボランティアのコーディネーターに相談し、下見などをして実施している。今後の課題としては、担い手の高齢化、ボランティアの数が伸び悩んでいること。地域の方に人材募集のパンフレットを作り、協力の依頼をしている。

(委員) 高齢化が進んでいる地区であるが、高齢者に来ていただけるように、どのような取組をしているのか。

(団体) 介護予防などの事業を町内会館で実施している。相談の機会として月1回の出張相談の機会を設け、ケアプラザから遠いところで実施している。その他、ケアプラザ以外で、高齢者や子育て世代の方など、幅広い年代の方が活動できる場を企画したい。

(委員) 高齢者同士の虐待について、虐待が多いのであれば指導すべきだと思うがどうか。

(団体) 相談窓口がケアプラザにあるということを館内に掲示している。高齢者同士の虐待について、5職種ミーティングで情報共有し、虐待防止ネットワークミーティングを区と行ったりしている。ケアマネジャー連絡会、包括支援センターの合同カンファレンスなどでも情報共有している。

(委員) 出張相談について、件数が伸び悩んでいるという話があったが、事前の周知や、ケアプラザ自体の存在を広く住民に知ってもらうための努力は。

(団体) 広報の掲載と、出張相談を行っているお店でのチラシの掲出、ホームページへの掲載を行っている。町内会の集まりでケアプラザの周知ができれば良いというお話もあり、そういう場面も活用していきたい。

(委員) 第4期に向けて力を入れていきたいことは。

(団体) ケアプラザ自体の周知は地域の中で取り組んできて、できていると感じる。今後は、ケアプラザに足を運びにくい方など、ケアプラザの外に向けて活動をしていく必要がある。単位自治会との関わりの中で、自治会館など地域の場所を利用して、事業所などと連携しながら、企画を考えていきたい。

(委員) 地域ケアプラザの事業に参加しにくくなっている方への送迎など、来ていただくために行っている対策や、今後に向けて考えていることは。

(団体) 移動のサービスは、区内の課題としても出ている。来られない方についてはケアプラザ側から出ていくきっかけとなるようなイベントも検討していたらと考えている。また、地域包括ケアシステムを通じて、過ごしやすい地域の環境づくりに取り組んでいけたらと思う。

(4) 横浜市恩田地域ケアプラザ

<主な質疑応答>

(委員) とても良い事業をしてきたのが良く分かったが、今後5年間どうしていきたいのかを教えて欲しい。

(団体) 現在の取組について、これからも継続していくと捉えていただければと思

う。

(委員) 自主事業について様々な取組を実施しているが、限られた人員で工夫していることや、体制について紹介してほしい。

(団体) 窓口当番を1人以上置いて、相談があった際の対応に備えている。それ以外の職員は出来るだけ地域に出向いて、地域の方との顔が見える関係を築き事業展開できるようなことを進めている。

(委員) 今後5年間で子育て支援に向けて必要なことはどのようなことか教えて欲しい。多世代交流は難しい面もあると思うが、運営されている工夫やメンバー構成などをお聞きしたい。

(団体) 子育て支援について、多目的ホールの1階を月曜から土曜日までフリースペースとして親子の集える場として提供している。その場に、近隣の保育園に来てもらい、子育ての悩みについて保育園の方に直接聞ける機会を設けている。今後は地域に出向いて、親子の集まれる場を提供したいと考えている。協力していただける関係機関を増やしていくことが課題で、民生委員や、区のこども家庭支援課、ラフルなどとも連携を取りながら実施していきたい。空き家を活用し多世代交流を実施したいという意見があり、どのような形でどのように展開していけるかを話し合いながら、検討しているところである。

(委員) 第4期に向けて新たに考えている展開や、より充実させたい取組はあるか。

(団体) 恩田ケアプラザのエリア内には、単位自治会が22ある。単位自治会の全班長会に参加させていただき、ケアプラザの役割や機能を知っていただくということを、今後の重要課題として取り組んでいきたい。

毎年続けていくという意味では、各自治会の班長も交代していくので、ケアプラザの役割や責務をお伝えすることで、地域包括ケアを地域住民に知ってもらいたいと考えている。地域包括ケアはサービス事業所だけではなく、地域住民がお隣同士、意識し合うネットワークを作ることが必要だと思っている。すべての自治会に顔を出すことを強化していきたい。

(委員) SDGsについて、貧困をなくそうという目標が掲げられているが、具体策は今後5年間に向けてあるのか。

(団体) 貧困については、経済的な貧困だけではなく、心の貧困も含めた貧困をなくすというテーマで、検討をしていくことを考えている。第4期地域福祉保健計画策定にあたり、地域の方にとって何が大切なのかを、町内の方に意見を聞く機会があるので、今後具体的に地域の方などと一緒に話し合い考えていきたい。孤食、孤独、引きこもりなど心の貧困が社会生活、地域の交流に影響を及ぼすと思う。地域に向けて発信していくことや人と人を繋いでいくことが地域ケアプラザの役割だと思っている。

3 指定管理者の候補者の選定

プレゼンテーション及び面接審査並びに事務局から前期の指定管理業務の実績に係る報告を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

(1) 横浜市美しが丘地域ケアプラザ

ア 指定候補者

社会福祉法人 緑成会

〔評価得点／満点：1,689点／2,440点〕

(審査講評)

- ・ケアプラザの事業に子育て世代が参加しやすいよう、工夫して取り組んでいただくとともに、子どもの視点を持った企画を期待したい。

イ 次点候補者

応募団体が1団体のため、該当なし。

(2) 横浜市大場地域ケアプラザ

ア 指定候補者

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〔評価得点／満点：1,797点／2,440点〕

(審査講評)

- ・近隣の施設である地域療育センターあおばや、地域子育て支援拠点ラフルなどの、専門分野のスタッフと協力するなど、ケアプラザだけでは対応が難しい部分についても、専門機関を活用して取り組んでほしい。

イ 次点候補者

応募団体が1団体のため、該当なし。

(3) 横浜市鴨志田地域ケアプラザ

ア 指定候補者

社会福祉法人 ふじ寿か会

〔評価得点／満点：1,519点／2,440点〕

(審査講評)

- ・事業計画（PDCA）のP（計画）の部分をしっかり作り、事業として取り組んでほしい。
- ・法人として、高齢や福祉の施設を運営されている利点をケアプラザの運営に生かしてほしい。

イ 次点候補者

応募団体が1団体のため、該当なし。

(4) 横浜市恩田地域ケアプラザ

ア 指定候補者

社会福祉法人 みどり福社会

〔評価得点／満点：1,867点／2,400点〕

(審査講評)

- ・積極的に外に出ていて、地域との関係性の構築に力を入れている。引き続き地域との丁寧な関係構築をお願いしたい。
- ・福祉避難所の運営面について、地域の特性を生かした具体的な内容や取り組みについて手厚く、とても良い形で進められているので、今後も継続して実施してもらいたい。

イ 次点候補者

応募団体が1団体のため、該当なし。

指定候補者の得点は、いずれも最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人 緑成会他を指定候補者として選定することを決定する。